



## 子育ての日々に贈るエール



まきば保育園園長 大澤 千佳子

春。それは慣れ親しんだところから新しいステージへと向かう季節です。考えてみると、人は常に新しい世界に出会いながら成長していきます。そこには、常に戸惑いと不安、そして期待があります。大人は自分が選んだことと引き受け何とか乗り越えていきますが、

子どもにとっては世の中すべてのものが初めて。見るもの、聴くもの、触るものすべてが驚きであり発見ですから、日々どんなエネルギーを使っているのだろうかと感じてしまいます。目をキラキラさせ屈託なく笑ったり、と思えば訳がわからないほど泣いたり、ひとりでやりたい気持ちと甘えたい気持ちを交互に表したりと千変万化。手をかけ、気持ちに寄り添っていきお母さんは大変です。

一日のほとんどを一对一で向き合ったら、出口のない迷路に入り込んでしまいますね。

でもそんな時は、もう頑張れない！という自分を認め労わってあげてください。そして、その世界から飛び出すことが一番大切です。

是非、たんぽぽ広場にいらしてください。空は広く雲は悠々と流れ、木々は芽吹き、春の色が園庭を彩っていきます。あなたと同じように子育てに奮闘中のお母さんがいます。いつも穏やかな先生と頼りになる先輩お母さん達もいます。子育ては、「考えるべきことを考え、必要のないことは考えない。」そのヒントをきくと発見できますよ。

最後に。この春ここを巣立っていく親子の皆さんの幸せを心からお祈りしております。

## 子育て講座シリーズ④ 乳幼児の生活で大切にしていること

☆子育て講座第4回目の今回は、まきば保育園で一歳児クラスの担当保育士・櫻井こずえ先生からお話を聞きました。子どもたちに人気の絵本や、見立て遊びのできるフェルトの手作りおもちゃなど具体的なアイデアもあり、質問も飛び出して和やかなひとときとなりました。

まきば保育園の1歳児のクラスでは主に三つのことを大切に過ごしています。

①安定した生活のリズムを大切に：毎日同じ生活リズムを繰り返すことで、次の見通しがつき、子どもが安心してすごせるようになります。昼食から午睡にむけて、部屋のカーテンを閉め、保育者が声のトーンを落とすなど落ち着いた雰囲気づくりをして、おなかがいっぱいになったら自然に眠たくなるような工夫もしています。

②一人あそびの時間を大切に：0歳時は口で、1歳は手のひらで、1歳後半からは指先を使って、おもちゃや自分の体の「研究」をしている「一人遊び」の時間を大切に見守るようにしています。ぼーっとしているように見える子どもも、周囲を観察したり考えたりしているので、大人はすこし離れたところから見守っています。

③子どもの気持ちを受けとめる：1歳児になると、けんかや取り合い、かむ、たたくなどが多発します。どの子どもの行動にも理由があるので「おもちゃがとられてしまって悲しかったんだね」と大人が子どもの気持ちを言葉にしてあげることによって、子どもは受けとめてもらえたと安心感が持てます。理由がわからないときも「いやだったんだね、でも大丈夫だよ」と抱きしめて、まず子どもの気持ちを受けとめています。そのうえで、してはいけないことは、そのたびに「たたいちゃだめなのよ」とわかりやすい一言で、繰り返し根気強く伝えるようにしています。だめなことはだめ、危険なことは危険と、子どものやりたいことを受け入れられない部分は、大人が迷わずはっきり伝えるよう心がけています。

